

1 学校経営にあたって（令和6年度）

トロント補習授業校

校長 近藤仁巳

学校経営の基本方針

（1）基本理念（教育目標）

「夢に向かって、自ら考え行動し、心豊かで新たな社会を切り拓くグローバル人材の育成を図る」

教育を取り巻く社会情勢は、社会のグローバル化はもとより、インターネット、スマートホン等の急速な普及に伴う超スマート社会へと進み、Society5.0 と呼ばれる姿に大きく変化しています。さらに、DXの進展や人工知能（AI）の飛躍的な技術革新により、現代社会は加速度的に変化し続けています。様々な仕事の遂行は機械に任せ、現在、学校で学ぶ子どもたちの多くは、私たちが未だ知らない、創造的な、新しい仕事に就く機会を得ることになると考えられます。

このように変化が激しく、予測が困難な社会の中でも、子どもたちが自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、判断して行動し、それぞれが思い描く幸せを実現できる姿をめざして、幼稚園教育要領を含め、小学校、中学校、そして高等学校の学習指導要領は、一昨年度までに全校種改訂、実施が始まりました。トロント補習授業校においても幼児部から高等部まで、全て新学習指導要領のもとでの教育活動を実施しております。

そのような中で、令和5年6月には「新たな教育振興基本計画」が閣議決定され、持続可能な社会の創り手の育成と、日本社会に根差したウェルビーイング（Well-being）の向上という二つをコンセプトとした、今後5年間の教育全体の方向性や目標等が示されました。

トロント補習授業校で学ぶ未来を生きる子どもたちが、「確かな学力」「豊かな心」を身につけると共に、協調的幸福と獲得的幸福のバランスを重視した調和と協調に基づくウェルビーイングを実現していくために、自ら主体的に目標を定め、振り返りをしながら責任ある行動がとれる力を身につけてほしいと思います。

子どもたちが、ポストコロナの時代においても、時代の変化を前向きに受け止めながら、自分の良さや可能性を認識し、他者との絆を大切に、多様な人々との協働・協調しながら、「新たな社会を切り拓くグローバル人材」（＝「持続可能な社会の創り手」）に成長してほしいと願います。そして、トロント補習授業校を巣立った子どもたちが、不安定化する国際情勢、頻発する自然災害等、不確実性の高まる社会の中でも、やがては日本とカナダ・世界を結ぶ懸け橋となり、大きく羽ばたいてほしいと切に願います。

（2）教育目標

学習者起点の教育「すべては子どもたちの笑顔のために、夢の実現のために」

－ 楽しい学校、分かる授業－

教育は未来創造の営みであり、一人一人の強み、可能性を引き出し、伸ばす活動でなくてはならないと捉えています。時間をかけて積み重ねていくその先には、かけがえのない成果が生み出されると信じ、私たちは教育活動にあたります。

しかし、その過程は容易なものではなく、毎日の生活で困難に直面することは想像に難くありません。そんな時、本校の教職員は、子どもたち一人一人がそれぞれに夢・目標に向かって努力する過程を励まし支える存在となり、子どもたちが充実した学校生活・家庭生活を送れるように「ワンチーム・トロント」を標榜し、教職員が一丸となって教育活動を展開したいと考えます。「継続は力なり」と言われます。今日の努力が未来の夢の実現への第一歩となります。子どもたちの日々の困難さに寄り添い、子どもたちを支えられる教職員でありたいと思います。

「教育は人なり」という言葉があります。「子どもは教師の『言う通り』にならないが『する通り』になる」「価値観は言葉以上に、実行している人の姿によって伝えられる」とは、教職員のあるべき姿を示した教訓を込めた言葉です。本校教職員は、学習者を起点に据え「すべては子どもたちの笑顔のために、夢の実現のために」との基本的な考えのもと、令和4年12月に中央教育審議会答申において、『令和の日本型学校教育』を担う教師及び教職員集団」として示された姿、「変化を前向きに受け止め、教職生涯を通じて学び続ける」「子ども一人一人の学びを最大限に引き出す役割を果たす」「子どもの主体的な学びを支援する伴走者としての能力を備えている」をめざし、教職員で力を合わせて教育活動を進めていきたいと考えます。そして、子どもたちのよき手本となる教職員であるよう研鑽を積んでまいります。

また、本校の教職員には、子どもたちの優れた素質を見出し、伸ばしていくために支援にあたってほしいと思います。子どもを「やる気にさせる」、子どもに「自信を持たせる」、子どもたちを「自分の優れたところを伸ばそうと前向きな気持ちにさせる」ことが本校教職員の責務であると考えています。

子どもたちが各自の夢や希望を描き、毎回笑顔で登校し、主体的に学習や行事に取り組み、その結果として、確かな学力と豊かな心（人間性）を身に付けてほしいと考えます。日々の授業が分かり、諸活動が楽しい学校をめざします。そして、本校で学んだ子どもたちが、それぞれの立場や環境で、将来の日本とカナダ、世界の懸け橋となっていけることを願っています。そして、このような学校運営を通して、保護者に信頼される学校づくりを進めてまいります。

（3）校長の姿勢

本校学校運営の最高責任者として、その職責の重さを十分に理解し、全精力を傾けて学校運営にあたります。トロント補習授業校の先進的な取り組みにさらに磨きをかけ、先の見えない世界でも柔軟に適應していける将来の「グローバル人材」育成に向け、教職員の指導力を高め、計画的・継続的・組織的な運営を行います。その結果として子どもたちが「生きる力」を身に付け、保護者に信頼される学校づくりを進めたいと考えます。そのために校長として、以下の3点に留意してまいります。

- 1 学習者起点の教育活動を展開する（子どもを第一義に考えた教育）
 - ・ 子どもたち（保護者）に温かく寄り添い、笑顔あふれる学校をめざす教職員づくりを行う
 - ・ 子どもたちが「日々の授業が分かり、学校の諸活動が楽しい」と思える学校をめざす
- 2 「ワンチーム・トロント」＝教職員が一致協力して教育活動にあたる
 - ・ 社会の変化に伴う教育の新たな方向性に目を向け、主体的に授業改善に努める教職員集団をつくる
 - ・ 学び合い、助け合い、自ら成長し続ける教職員・教職員集団をつくる
- 3 保護者・学校関係者との良好な関係を構築、維持し、信頼される学校をつくる
 - ・ 豊かな学び合いがあり、保護者が我が子を本校に通わせたいと思う学校づくりを行う
 - ・ 開かれた学校づくりに向けて運営委員会と連携し、家庭との協力を推進する
 - ・ 学校からの情報を発信し、運営委員会の方々と共に保護者の学校教育への参画を進める
 - ・ 運営委員会との協力体制を構築し、学校教育の改善に努める
 - ・ 教育課題の解決に向け、文科省等の関係機関との連携を密にする
 - ・ 幼、小、中、高の連携を進める。（学習交流、遊び交流、行事交流等）